

令和8年7月30日
(資料提供)

(事務担当) 所属名：農林総合研究センター 農業試験場 中央普及支援センター 病害虫防除室 直 通：257-6972

令和8年度病害虫発生予報第5号について

今後 発生が予想される水稻、大豆、果樹、野菜、花きの病害虫の発生量や防除上の注意事項について掲載します。

1 予報期間 8月上旬～8月下旬

2 予報内容

(1) 水 稻

紋枯病の発生は**やや多**と予想される。防除を実施していないほ場では、発病を確認した場合、直ちに防除を実施する。

斑点米カメムシ類の発生は**多**と予想される。高温乾燥時には水田への侵入が促進されるので、防除を徹底し、斑点米の発生防止に努める。

【病害虫発生予察注意報第3号（令和8年7月27日付）参照】

ツマグロヨコバイの発生は**多**と予想される。今後の発生に留意する。

(2) 大 豆

カメムシ類の発生は**多**と予想される。幼莢期から子実肥大期に必ず防除を実施する。

ハダニ類及び**アブラムシ類**の発生は**やや多**と予想される。抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤は連用しない。

(3) 果 樹

カメムシ類の発生は**多**と予想される。山林に近い園では特に被害が多くなる傾向があるので、園内の侵入に十分注意する。

ハダニ類の発生は**やや多**と予想される。抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤は連用しない。

(4) 野菜・花き（さつまいも、やまのいもを含む）

軟腐病の発生は**やや多**と予想される。作業中は作物を傷つけないよう注意するとともに、害虫の防除を徹底する。

ネギ黒斑病の発生は**多**と予想される。降雨前後の防除を徹底する。

オオタバコガ、ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウの発生は**やや多**と予想される。若齢期の幼虫の防除を徹底する。

ハダニ類及び**アブラムシ類**の発生は**やや多**と予想される。抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤は連用しない。

※農薬の使用に当たっては、最新の農薬使用基準を確認し、遵守する。

6～8月は農薬危害防止運動期間です。